

2025年 **参加無料**

電炉鋼材 フォーラム 開催

主催
普通鋼電炉工業会

2025. **11.6** 木
13:15 ~ 16:55

会場参加

開催場所

品川フロントビル会議室

東京都港区港南2-3-13 品川フロントビル B1階

会場参加

定員 **300**人

ライブ配信 オンライン参加 (参加用URLよりご参加ください)

※参加希望者は、会場参加・オンライン参加どちらの場合でも、下記の申込フォームURLよりお申込みください。

普通鋼電炉工業会は、鉄スクラップを電気炉により溶解・圧延し、鉄筋、形鋼、平鋼等の電炉鋼材を生産しています。電炉鋼材は建設分野を中心に幅広く使用されており、また今日、環境・資源循環等の観点からも鉄のリサイクルによって生まれる電炉鋼材への関心は日々高まっています。そのような中、当工業会では例年、官公庁・自治体・建設会社・設計会社・鉄骨加工・鉄筋加工・流通・教育研究関係をはじめとするユーザーの方々をお招きし、電炉鋼材の生産技術、鋼材使用の動向、電炉業をめぐる動きについての情報発信を行うべく、「電炉鋼材フォーラム」を開催しています。本2025年も昨年に続き、東京での対面開催を主体としつつ、特に遠隔地から参加を希望される方々の便宜にも配慮し、オンラインによるライブ配信を同時開催します。

申込方法

参加希望者は、会場参加・オンライン参加
どちらの場合でも、申込フォームURLよりお申込みください。

申込フォーム
URL } <https://e.try-sky.com/fudenkou/entry/>



13:15 ~ 13:25 **開会挨拶** 普通鋼電炉工業会 会長 美濃部 慎次

13:25 ~ 13:35 ビデオ上映 **「DENRO ~循環型社会の未来へ~」** 普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 委員長 上道 雅文 (共英製鋼株式会社 上席執行役員 生産企画部長)

13:35 ~ 14:10 **サーキュラーエコノミーに寄与する前処理技術開発戦略と検討例**

早稲田大学 創造理工学部 部長・研究科長 所 千晴 氏
早稲田大学 理工学術院 教授

サーキュラーエコノミーの実現のために、可能な限り資源循環ループを内側に寄せつつ、処理と製造を融合させながらも、製造に負担をかけない高純度な再生材が求められる傾向にあります。本講演では、鉄材も含む異種材料複合材の前処理技術を俯瞰するとともに、より精緻な物理的分離を達成する新技術が求められていることを示し、電気パルス法など選択的加熱法の検討例を紹介いたします。

14:10 ~ 14:45 **日本のGX政策と鉄鋼業界への影響**

株式会社丸紅経済研究所 上席主任研究員 桑名 奈美 氏

米国のパリ協定離脱等、気候変動を巡る国際情勢は数年前と比べ様相が変わりつつある中で、日本はGX2040ビジョンを掲げ、カーボンニュートラルに向けた政策の青写真を掲示しております。こうした状況を踏まえ、日本の環境・エネルギー政策と鉄鋼業界（特に電炉）への影響をご説明します。

14:45 ~ 15:00 休憩

15:00 ~ 15:35 **日本の鉄鋼業の競争力向上に向けた、サプライチェーン横断DXへの挑戦**

三菱商事株式会社 マテリアルソリューショングループ 産業素材DX部 森谷 壮一郎 氏

鋼材のトレーサビリティ確保に必要な品質証明書（ミルシート）の電子化サービスを提供する三菱商事がプロジェクト発足の経緯や、普通鋼電炉工業会との歩み、最新の導入状況・機能のご紹介、その他同社取組についてご説明します。

15:35 ~ 16:10 **CNIに向けたアーク炉技術の動向 及びアーク炉設備における自動化、安全化について設備紹介**

スチールプランテック株式会社 プラントエンジニアリング本部 電気炉エンジニアリング第二部 吉田 賢統 氏

省エネやCO₂削減といった昨今の電気炉を取り巻くキーワードに基づいて、当社のECOARCシリーズ（環境対応型高効率アーク炉）を中心に、電気炉プロセスに求められる技術トレンド、電気炉操業に革新をもたらすCleanArc（アーク炉用新電源システム）をご説明します。加えて、当社の自動化・安全化に寄与する技術として、測温サンプリング採取ロボット、レーザー式排ガス分析計をご紹介します。

16:10 ~ 16:55 **カーボン・ニュートラルに向けた鉄源需給の展望**

株式会社鉄リサイクル・リサーチ 代表取締役 林 誠一 氏

世界はロシアのウクライナ侵攻が続き、米国の貿易関税問題が勃発するなど気を許さない状態が続いています。鉄鋼業を取り巻く厳しい需給環境のなか、カーボンニュートラルに向けて先進製鉄国では高炉の電炉化が進み、鉄スクラップ輸出余力不足論が出回ってきています。今回は受け側である発展途上国の取り組みについて調査した結果をまとめ、DRIを含めた鉄源の多様化と方向性を探っていきます。